

2002年4月OMG横浜会議のMDA Information Dayでの講演内容

MDAとシステム設計

2002年4月23日

(株)日立製作所

大谷 真

序:OMG の動き

- 1989年設立
- 分散オブジェクトミドルウェアの標準化
 - 1995年: CORBA2; 2001年: CORBA2.5
- ドメイン(業種別、業種共通)標準化
 - 1995年~: 各分野標準
- モデリング(=システム設計)の標準化
 - 1997年: UML(Unified Modeling Language)
 - 1997年: MOF; 1999年: XMI; 2000年: CWM
 - 2001年: 分野固有UMLプロファイル(EDOC, EAI)
- アーキテクチャ(参照モデル)
 - 1990年: OMA (Object Management Architecture)
 - 2001年: **MDA (Model Driven Architecture)**
- 2001年後半~:MDAに基づく各種標準化
- 2002年:UMLバージョン2(予定)・・・MDA基本機能を整備

アジェンダ

- MDAの背景とビジョン
- MDAのアプローチ
- MDAの実現に向けて
- まとめ

MDAの背景とビジョン

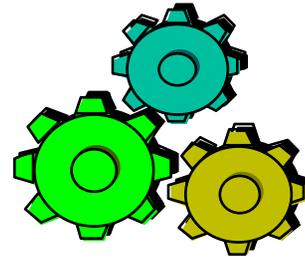
業務のインテグレーション



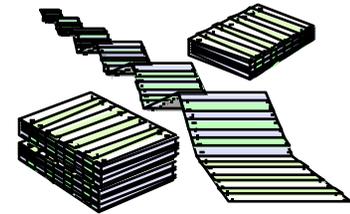
営業



設計



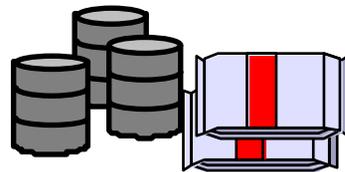
製造



財務・会計



出荷・入荷



入庫・出庫



入金・出金
・売掛

- 20年近くにわたって着実に進歩してきた
- しかし、現在も大きな課題を抱えている

問題の根源 = 多種多様なプラットフォーム

● 複数のハードウェアアーキテクチャ

- Pentium, PowerPC, PA-RISC, Sparc, 370, ...

● 複数のネットワーク

- イーサネット、ATM、IP、SS7、Appletalk、USB、Firewire、...

● 複数のプログラミング言語

- C/C++, Java, Visual Basic, C#, Perl, JavaScript, VBScript, COBOL, PL/I, Fortran, ...

● 複数のOS

- Unix、Windows、NT/XP、メインフレームOS、MacOS、Windows CE、携帯電話、セットトップボックス、ゲーム機、...

● そして、複数の分散ミドルウェア

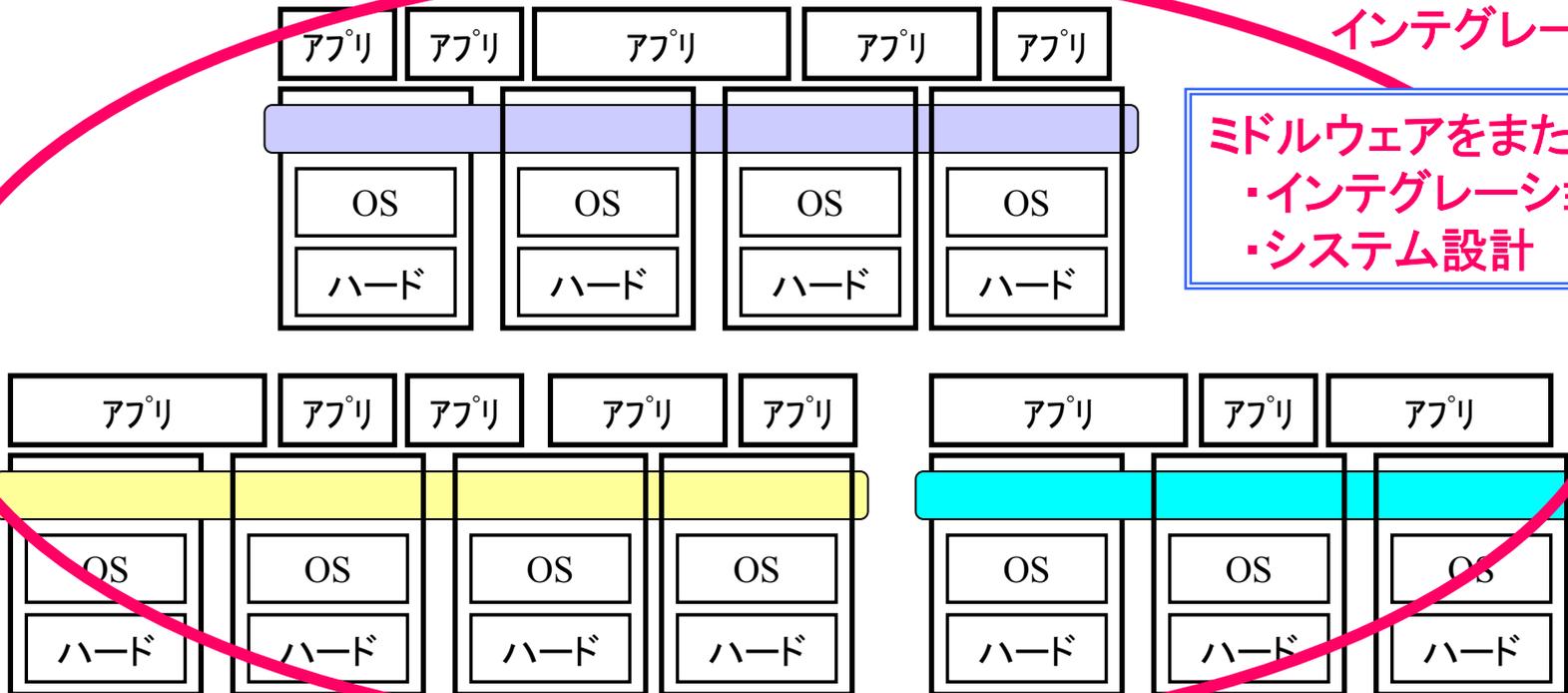
- JAVA/CORBA, COM+/.NET, Webサービス(SOAP, ebXML,...)

分散ミドルウェアの成功、進化、そして増殖

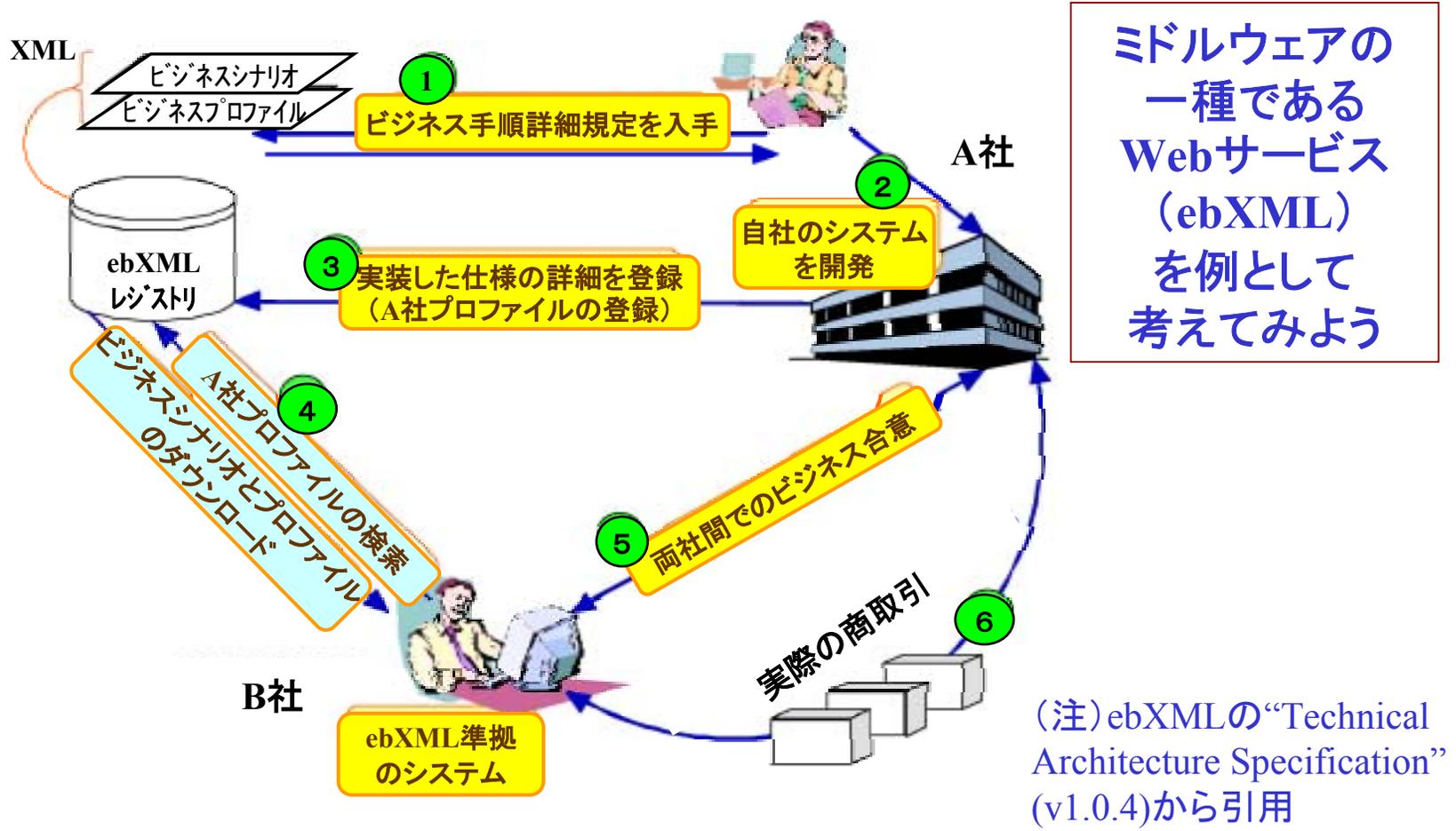
- ミドルウェアの標準化と普及により、異なるハード/OS上でのインテグレーションは解決の方向にある。
- 新たな問題: 複数のミドルウェア
CORBA, Java, COM+, 各種のWebサービス, .NET, ...

トータルな
インテグレーション

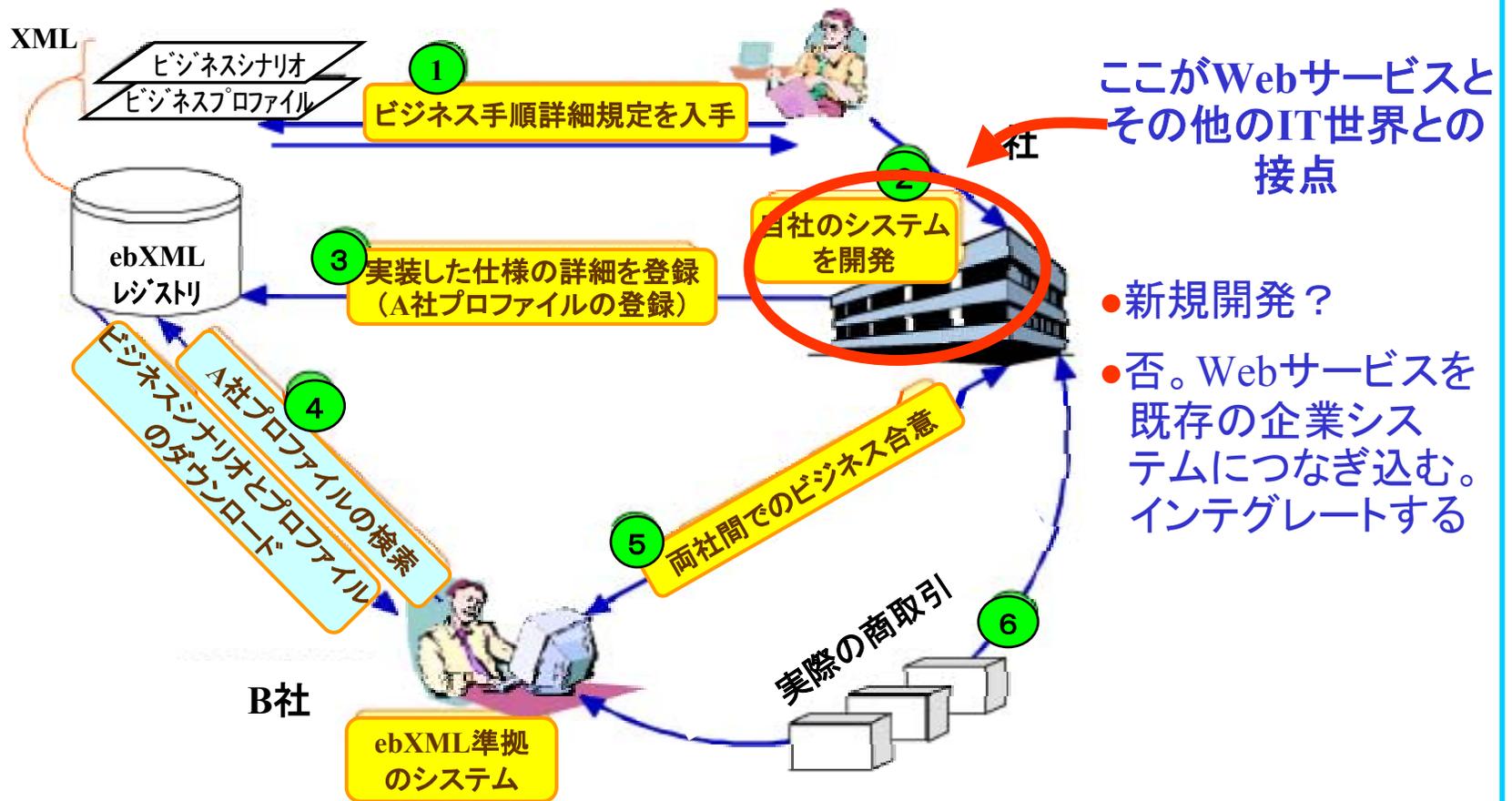
ミドルウェアをまたがる
・インテグレーション
・システム設計



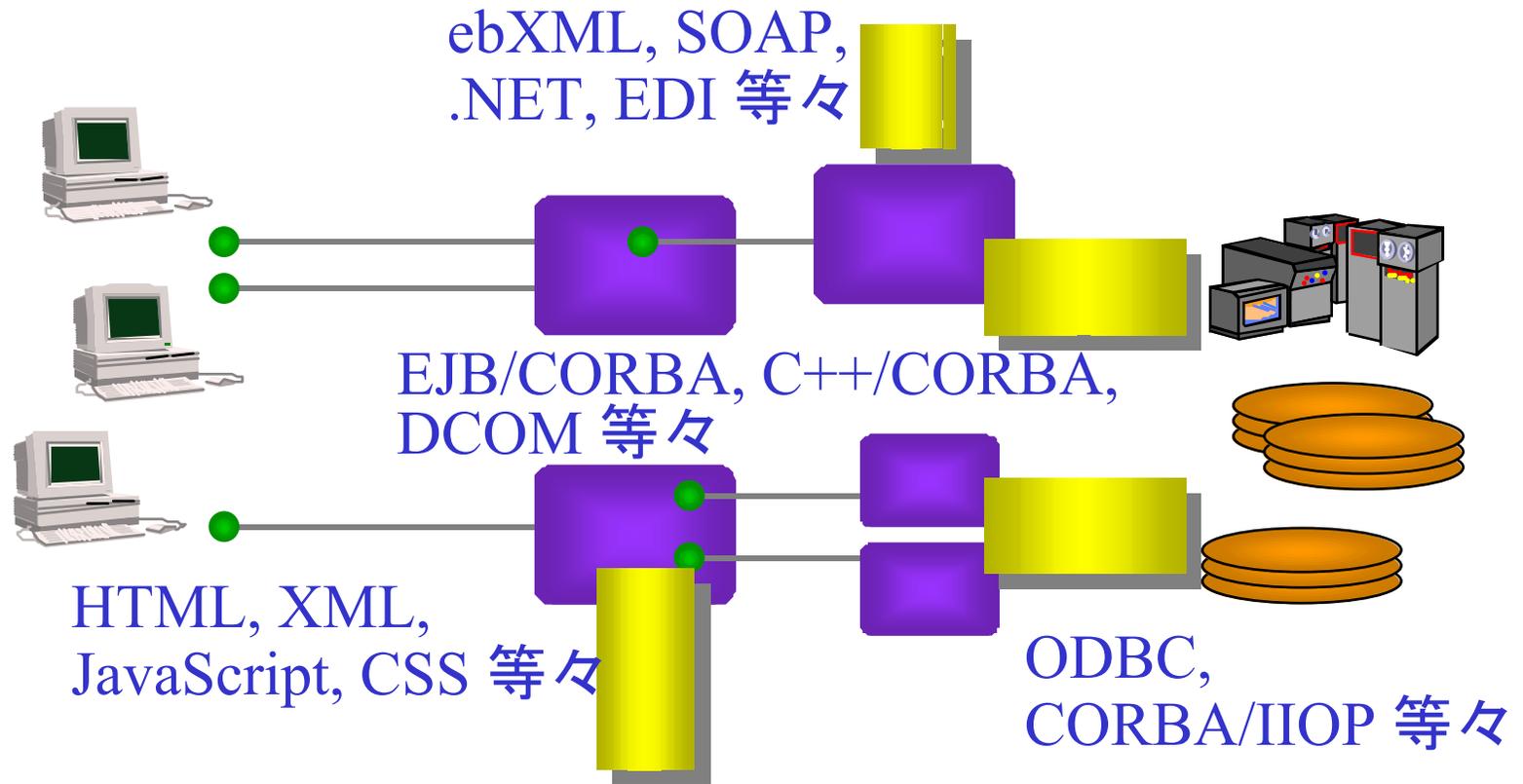
第1の課題： ミドルウェアをまたがるインテグレーション



ミドルウェアをまたがるインテグレーション



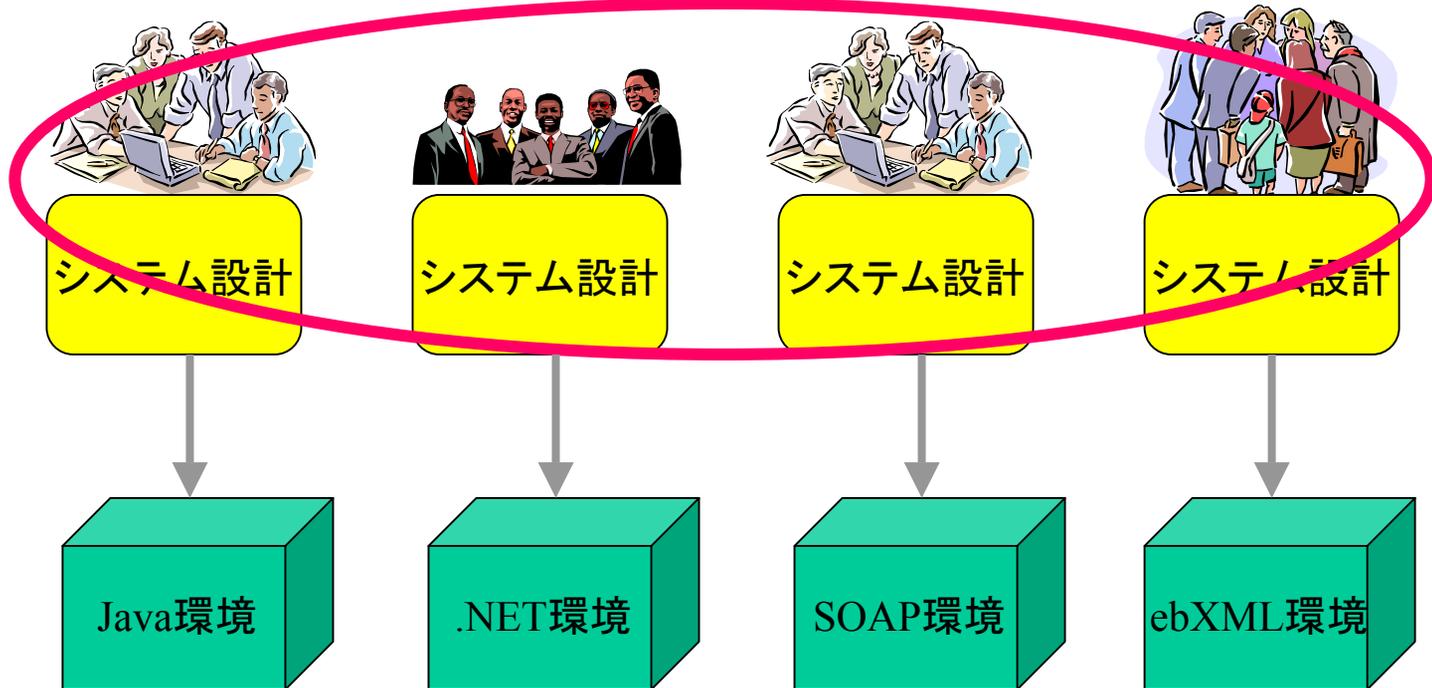
それは、社内のミドルウェア環境に つなぎ込むことを意味する



第2の課題： ミドルウェアをまたがるシステム設計

本質的に同じ目的
のシステムなのに

せめてシステム設計だけでも
共通に行いたいのだが。。



MDAのビジョン

- 複数の(ミドルウェア)プラットフォームの共存は不可避
- MDA(Model Driven Architecture)
⇒ **モデル中心アーキテクチャ**
- プラットフォームに依存しない設計
 - UML (Unified Modeling Language)で記述
 - **PIM (Platform Independent Model)**と呼ばれる
- PIMから、実際のプラットフォームに依存した設計を導出
 - **PSM (Platform Specific Model)**と呼ばれる
- PSMから、現物のインターフェース情報を導出

補足:ここでいう
「モデル」とは?

補足:「モデル」とは？

● ここでいう「モデル」とは？

- 概念を整理したもの
- 実物の縮小、実物の特徴の一部を示すもの
- 新たに作るとき参考にする既存物
- **設計書** より正確には、「システムの具体的な設計書」

● UML (Unified Modeling Language)

- システムの設計書を記述するための標準記法
 - 論理的なモジュール構成→クラス図
 - 状態遷移図→アクティビティ図、コラボレーション図
 - など

MDAのビジョン

● 複数の(ミドルウェア)プラットフォームの共存は不可避

● MDA(Model Driven Architecture)
=モデル中心アーキテクチャ

モデル=設計書

● プラットフォームに依存しない設計

➤ UML (Unified Modeling Language)で記述

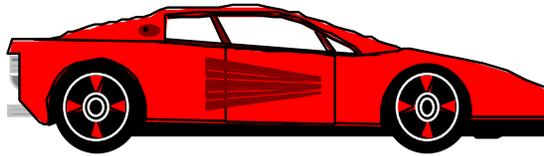
➤ **PIM (Platform Independent Model)**と呼ばれる

● PIMから、実際のプラットフォームに依存した設計を導出

➤ **PSM (Platform Specific Model)**と呼ばれる

● PSMから、現物のインターフェース情報を導出

簡単な例



<Car>
<doors> 2</ doors>
<colour> red</ colour>
</Car>



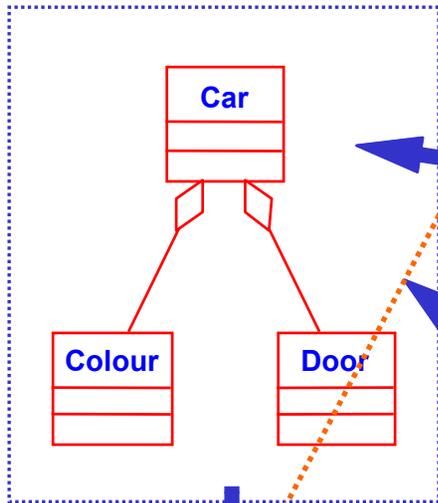
<auto doors="2" colour="red"/>

public class Car {
public colour colour;
public int door#; }

XMIの例

OMGのXMI標準で
 詳細なマッピング規則が定められている

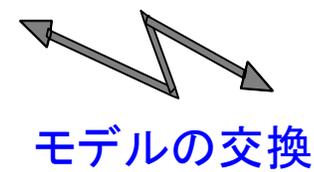
PIM (UMLで記述)



```

<Class>
  <Name> Car</Name>
</Class>
    
```

Model in XMI



```

<element name="Car"/>
<!ELEMENT Car (Colour*, Door*)>
    
```

XMI Schema & DTD

```

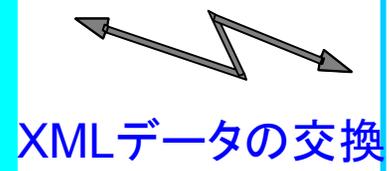
Class Car
{ Colour colour
  Door door
}
    
```

Java, IDL

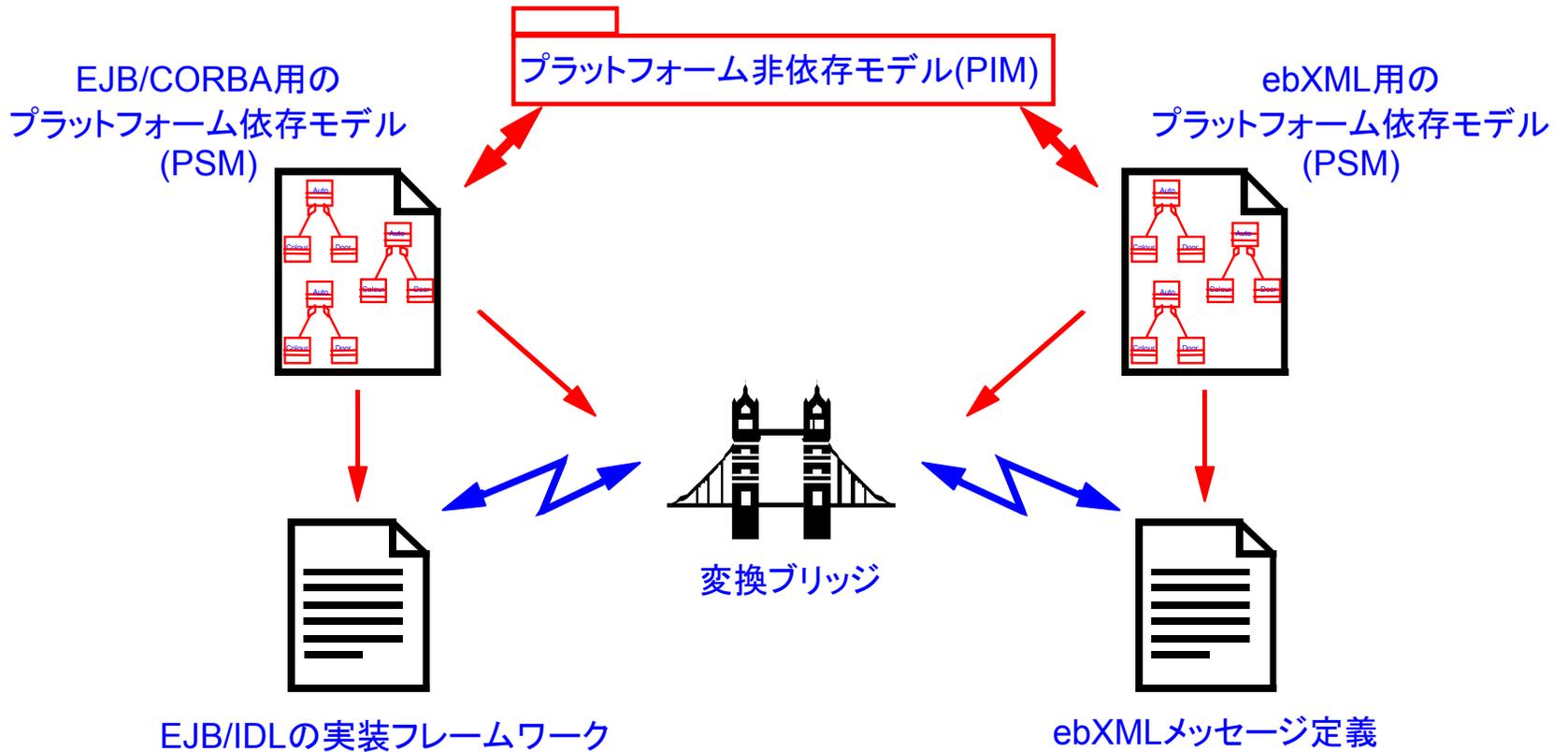
```

<Car>
  <Colour>Red</Colour>
  <Door>2</Door>
</Car>
    
```

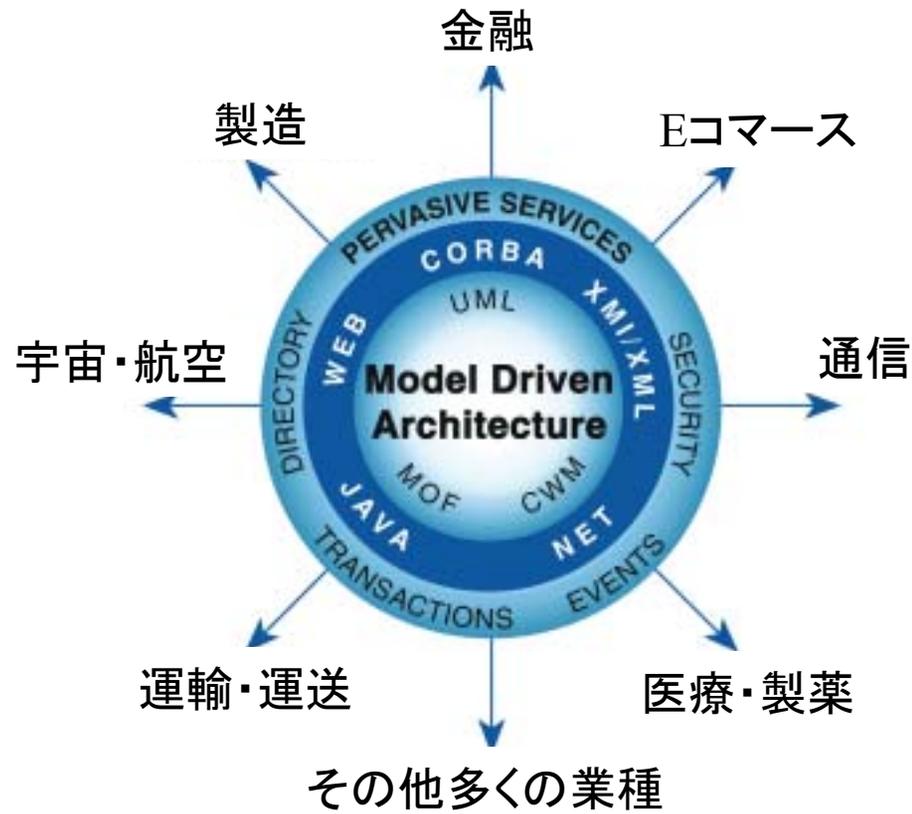
XMI doc.



モデル中心のアーキテクチャ



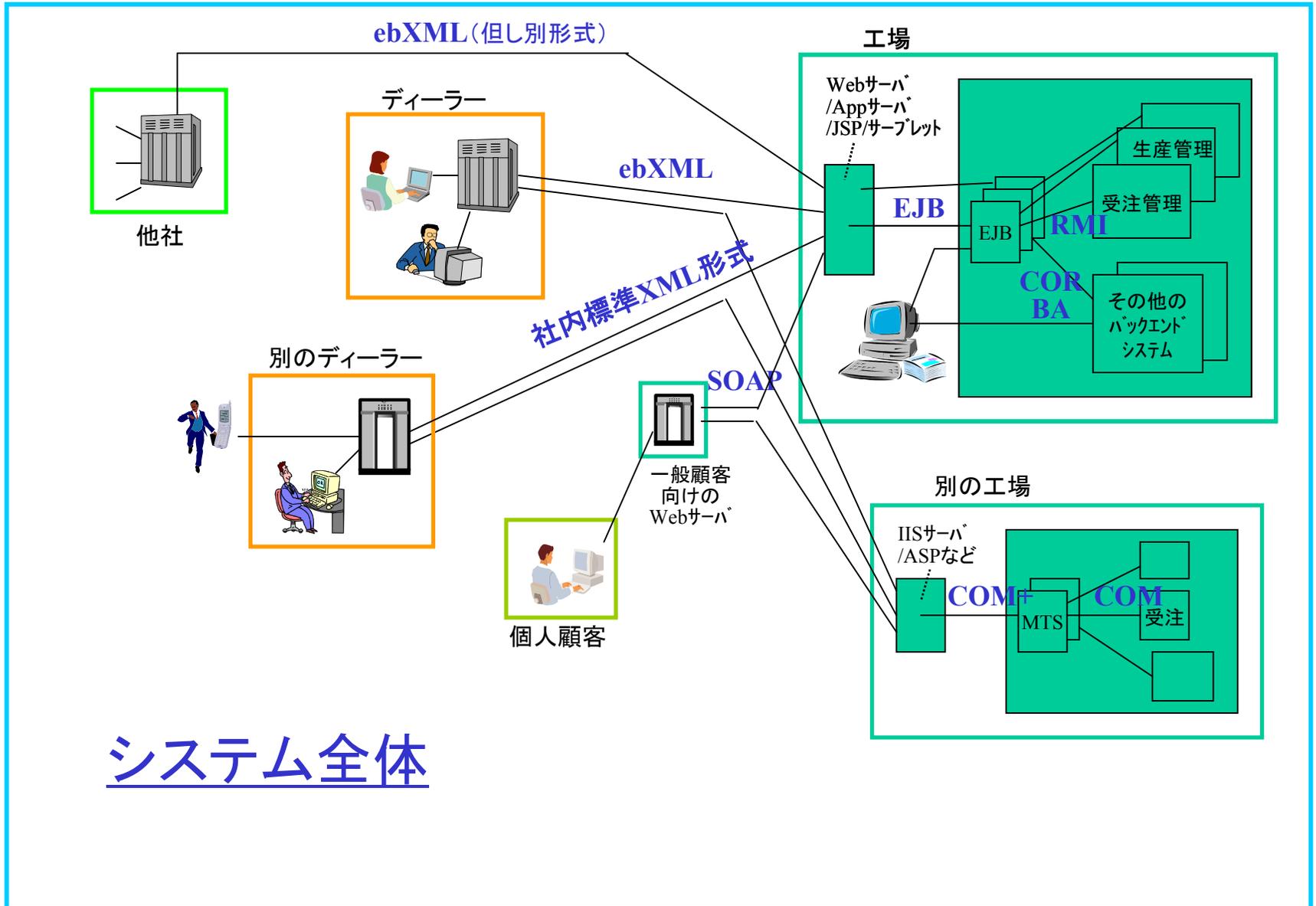
MDA (Model Driven Architecture) : モデル駆動アーキテクチャ



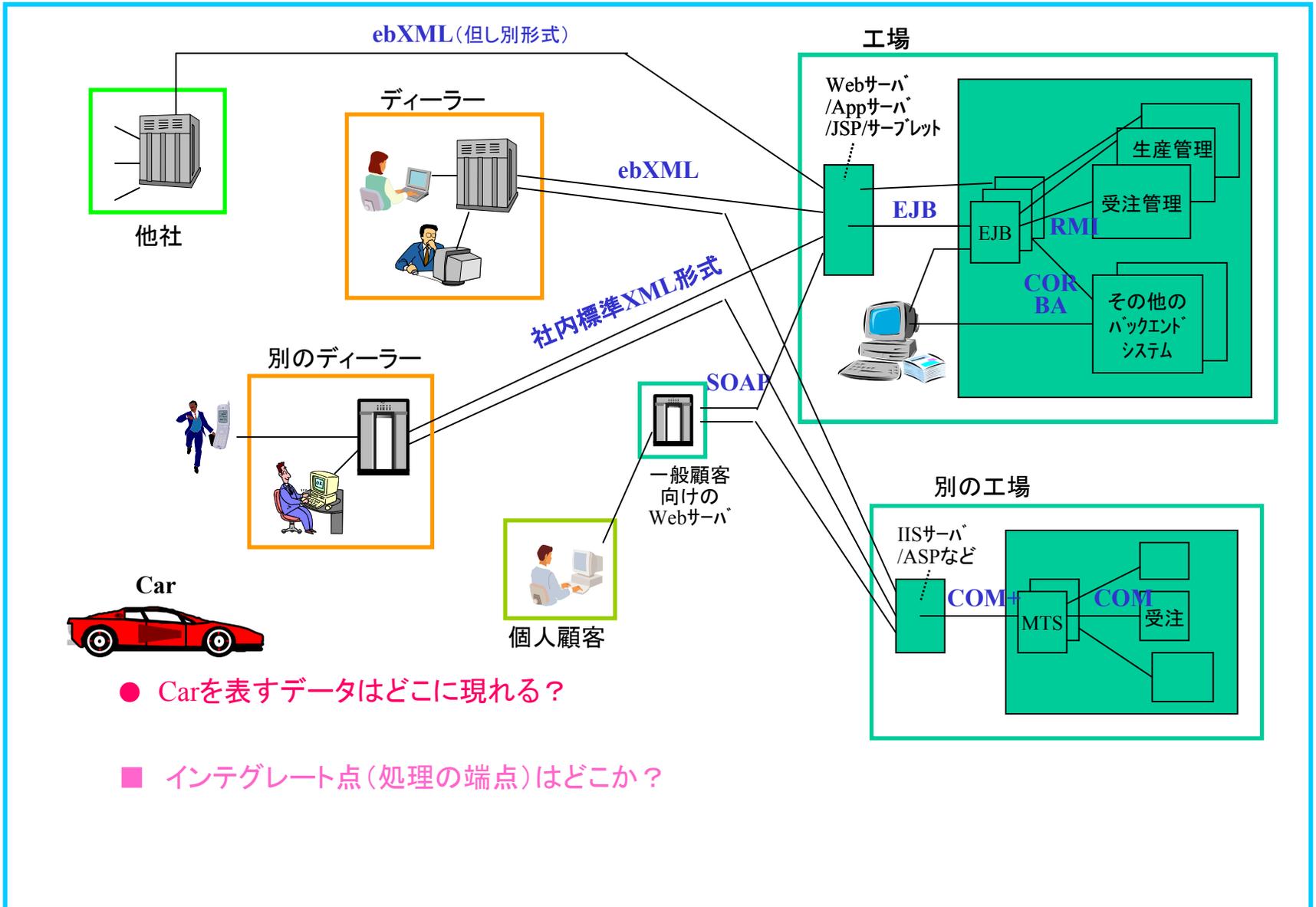
MDAのアプローチ

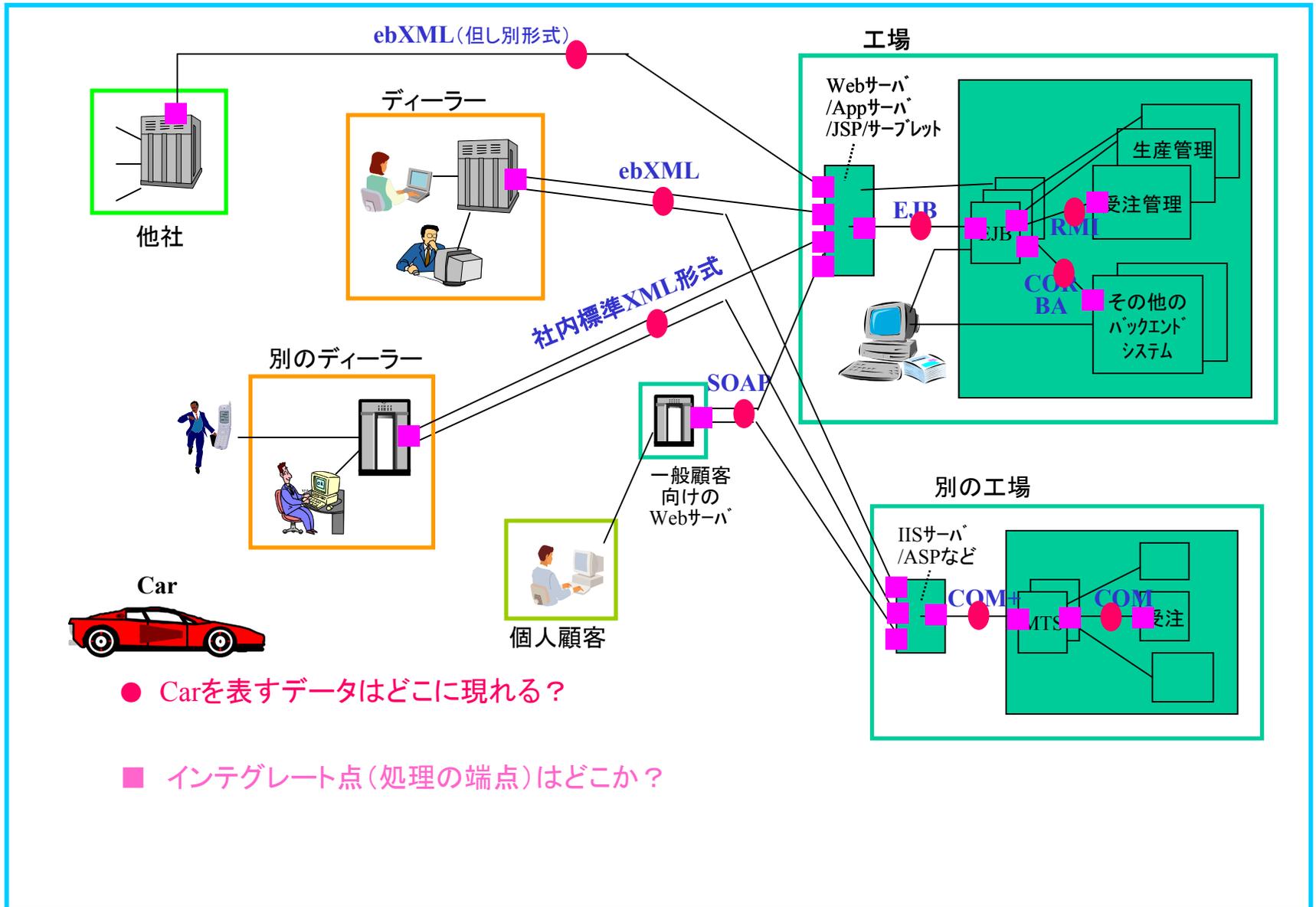
MDAのアプローチを示す例

- Car () の販売システム
 - 商品のオプション: Carの色とドア種別だけ・・・おもちゃの車！ (^_^)
- ポイント
 - Carを表す“同じ”データがあちこちに現れる
 - “同じ”処理もあちこちに現れる
- MDAのアプローチ
 - PIM (Platform Independent Model)
 - PSM (Platform Specific Model)



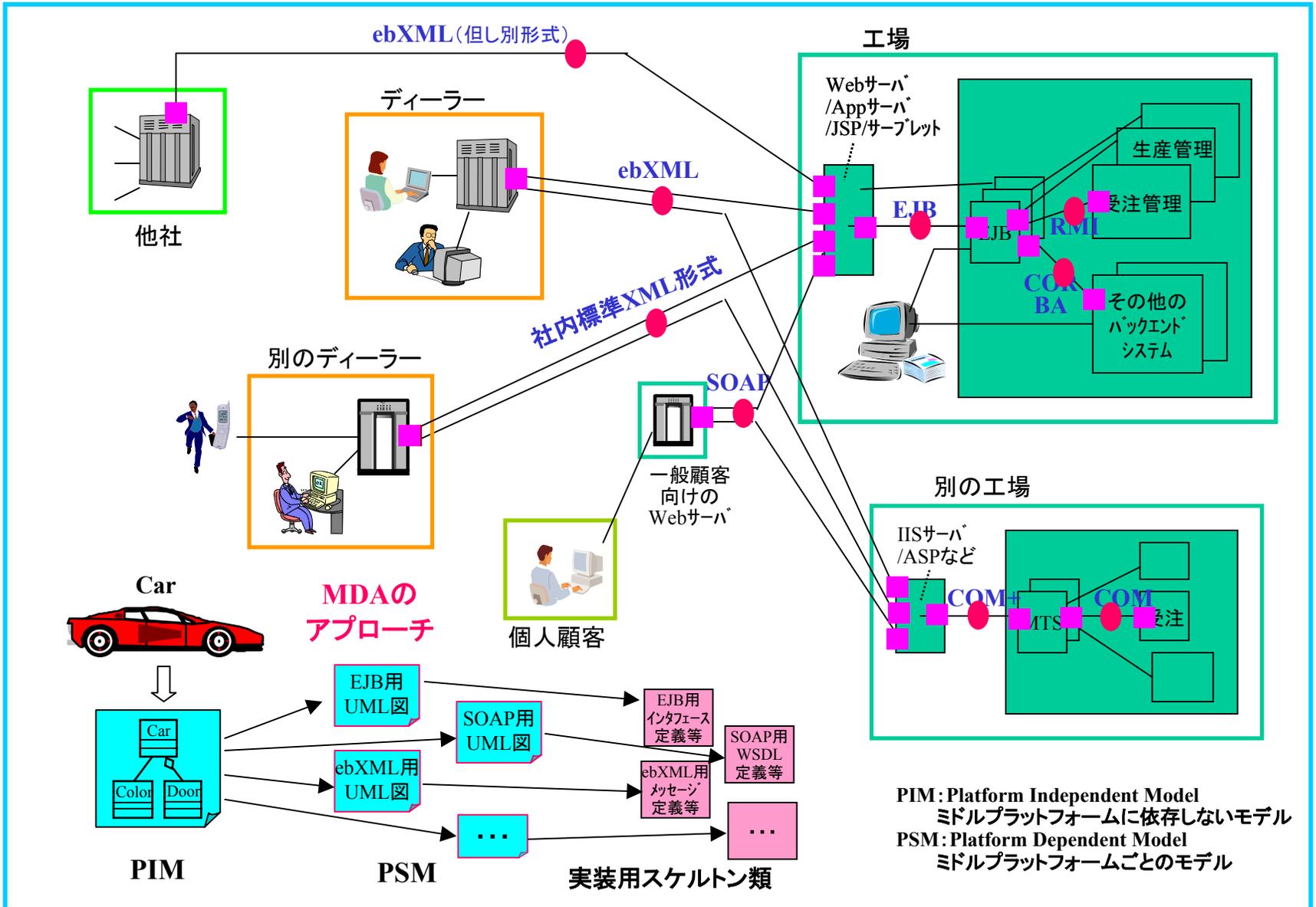
システム全体

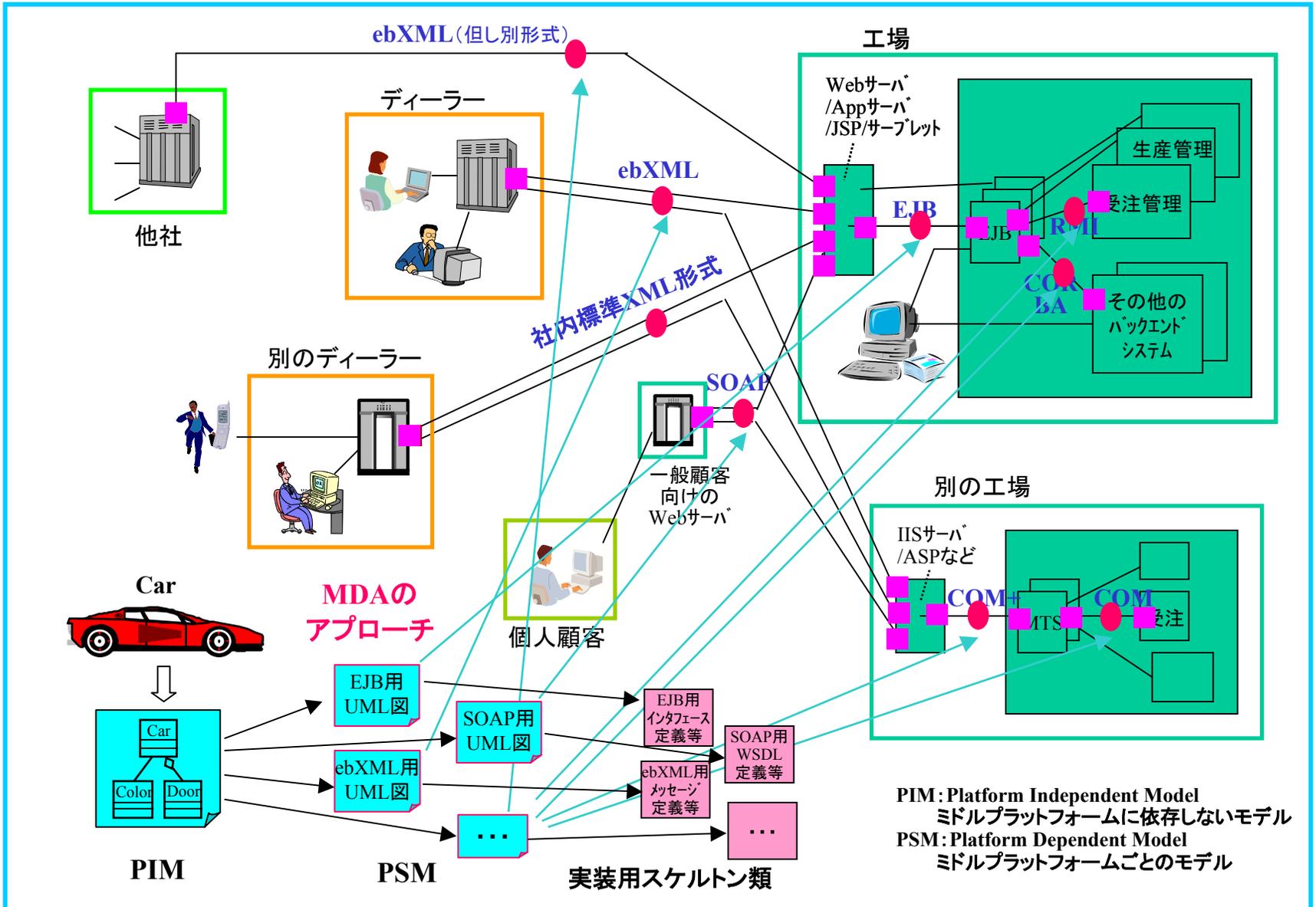




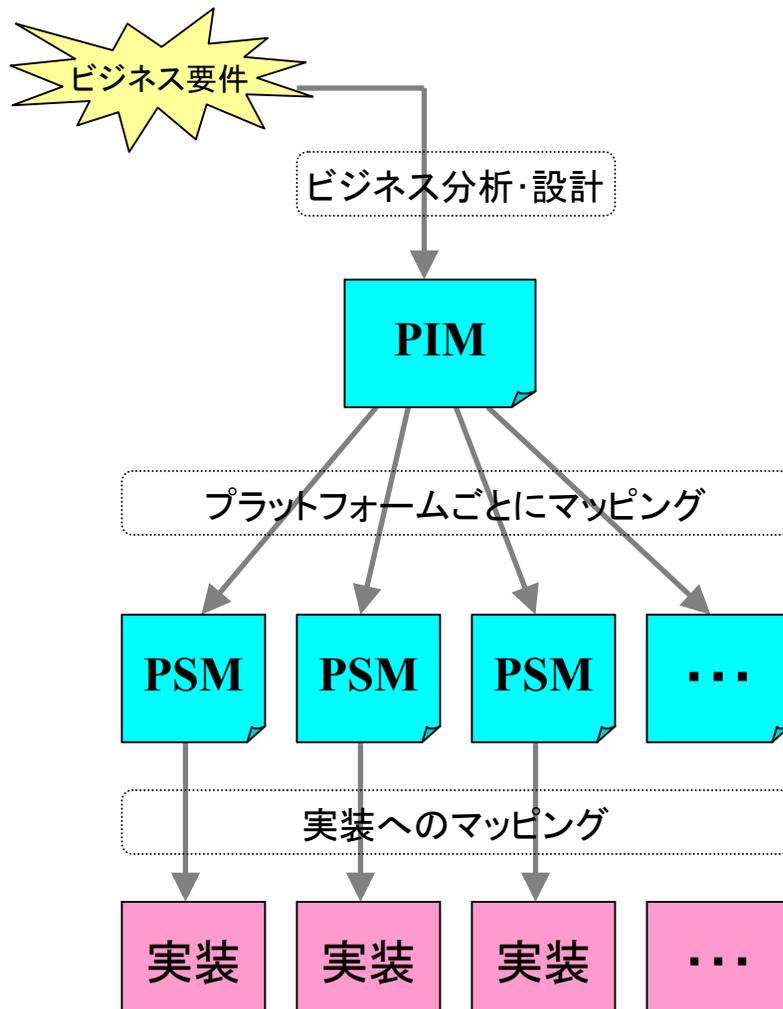
● Carを表すデータはどこに現れる？

■ インテグレート点(処理の端点)はどこか？





MDAのアプローチ



- 設計モデル中心
- PIMとPSM
- PIMはミドルウェアプラットフォーム非依存の設計図
- PSMはミドルウェアプラットフォーム固有機能を使った実装に即した設計図
- マッピング:
 - PIM→PSM
 - PSM→実装
- 開発プロセス／開発ライフサイクルへの柔軟な対応
 - PSM→PIM
 - PIM→PIM、PSM→PSM
 - (実装→PSM)

PIMとPSMの例

簡単な注文システム

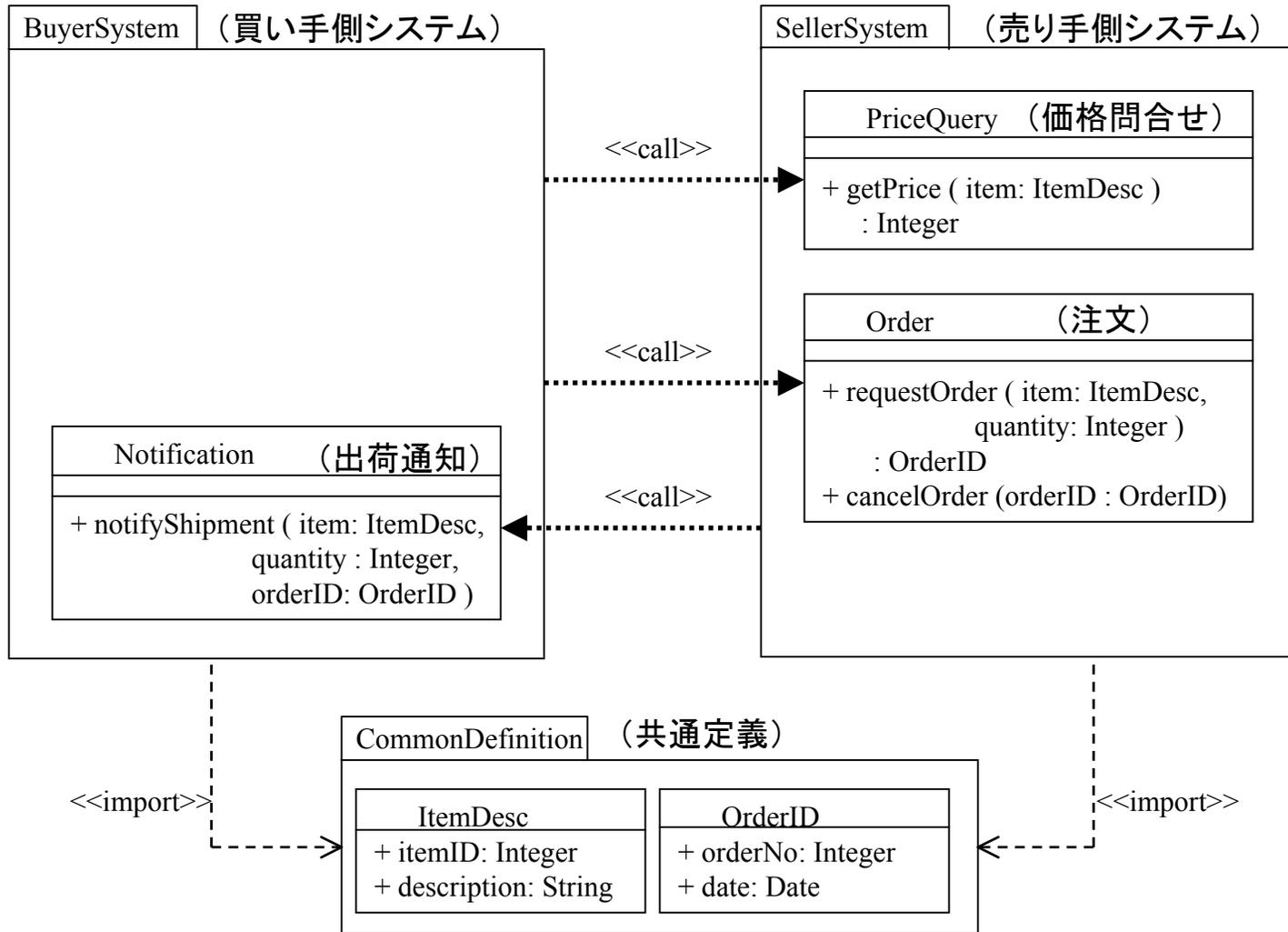
- 価格問合せ (PriceQuery)
- 注文 (Order)
- 出荷通知 (Notification)

PSM

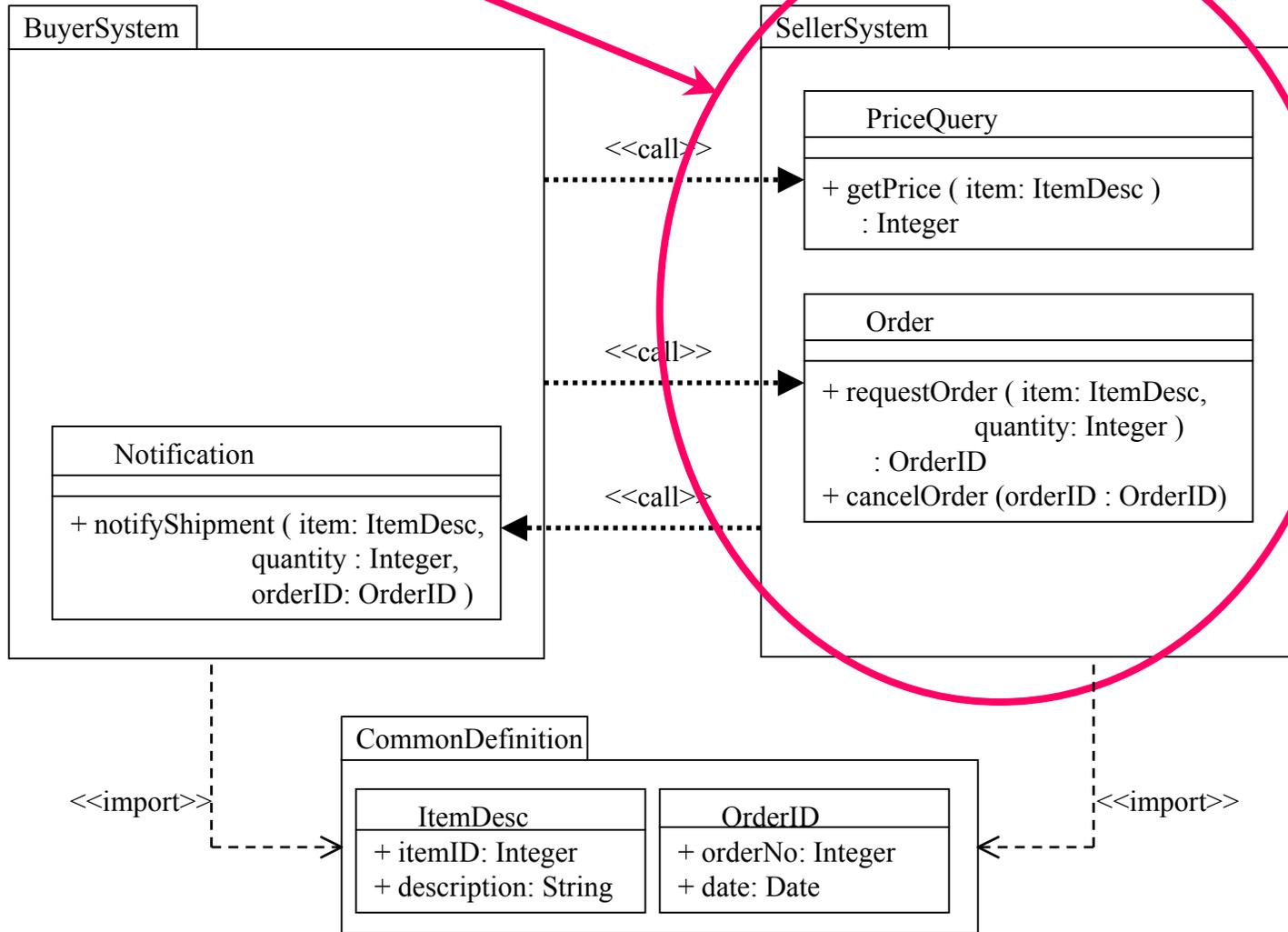
- **EJB** マッピング例 … 企業内取引を想定
- **SOAP** マッピング例 … Webサービス; 企業間取引を想定

(注) PIM: プラットフォーム非依存モデル; Platform Independent Model
PSM: プラットフォーム依存モデル; Platform Specific Model

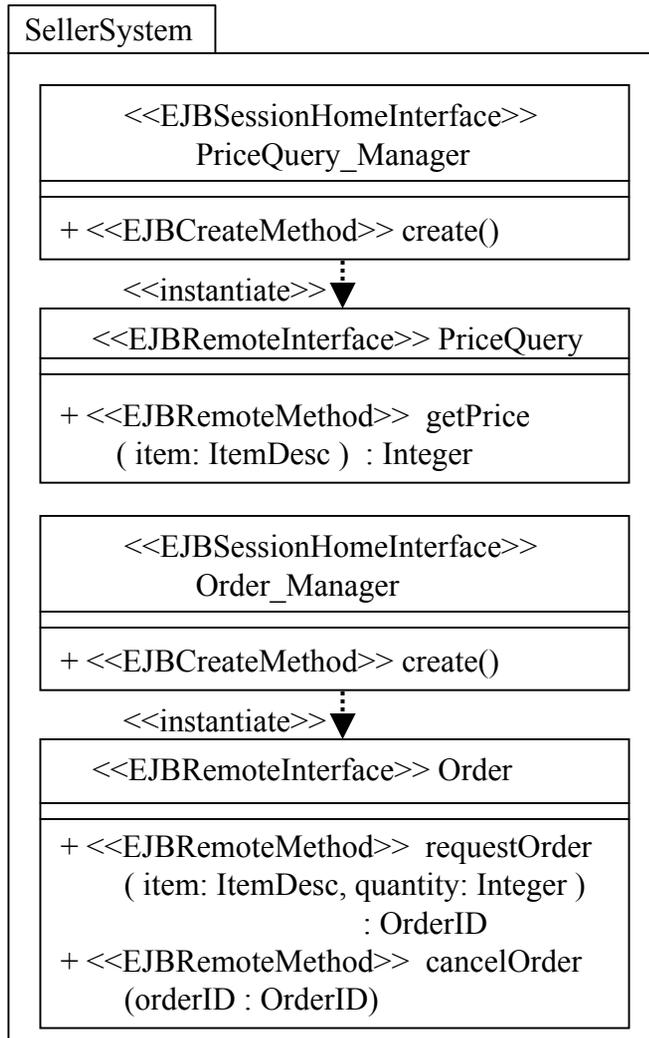
PIM



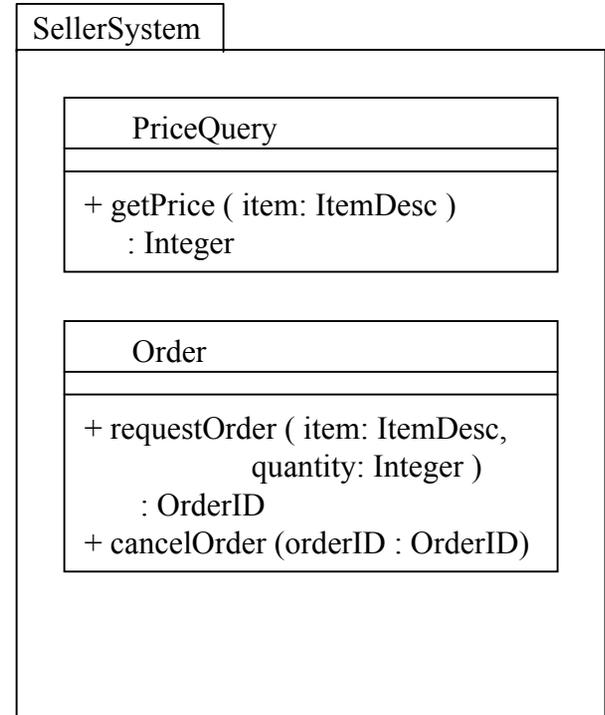
PSMの例 (ここだけ示す)



PSM (EJB用)

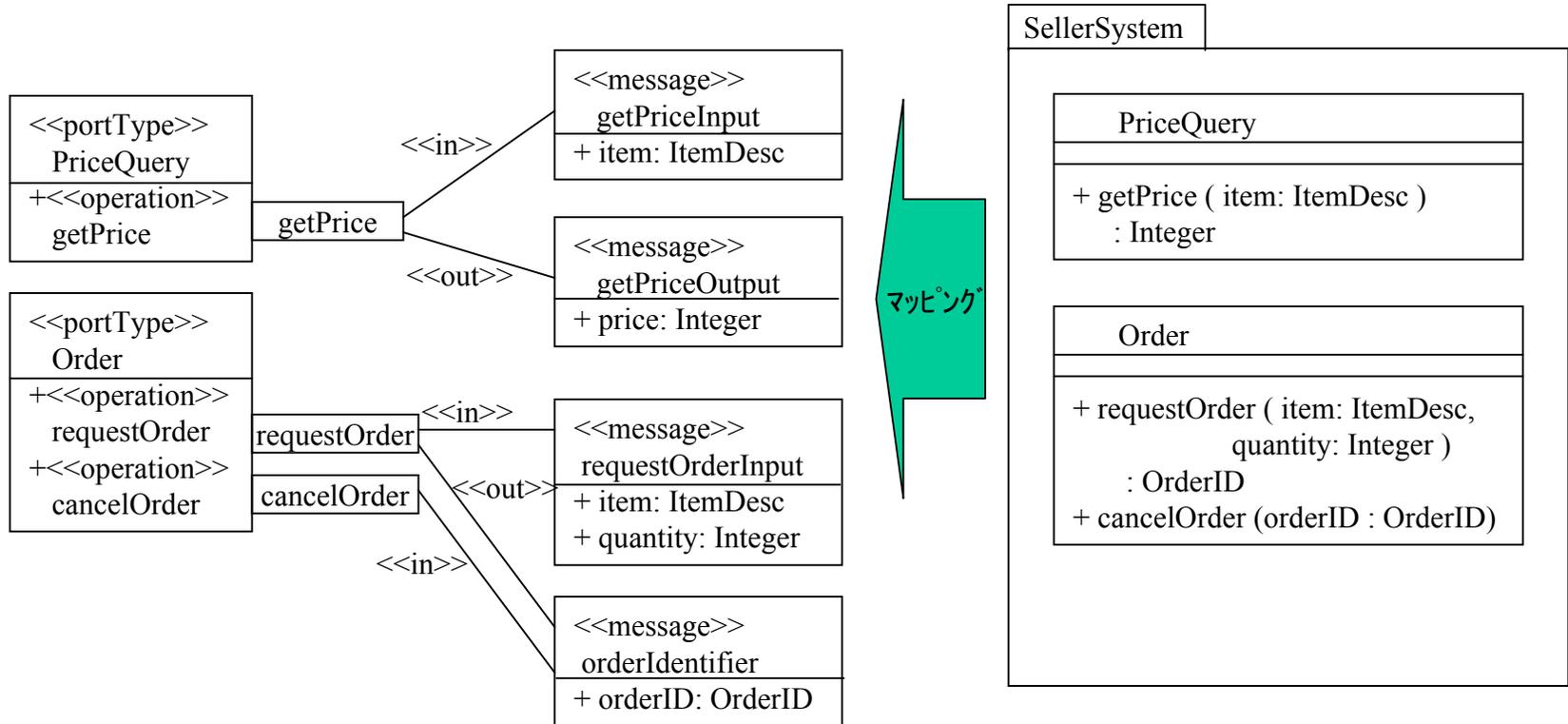


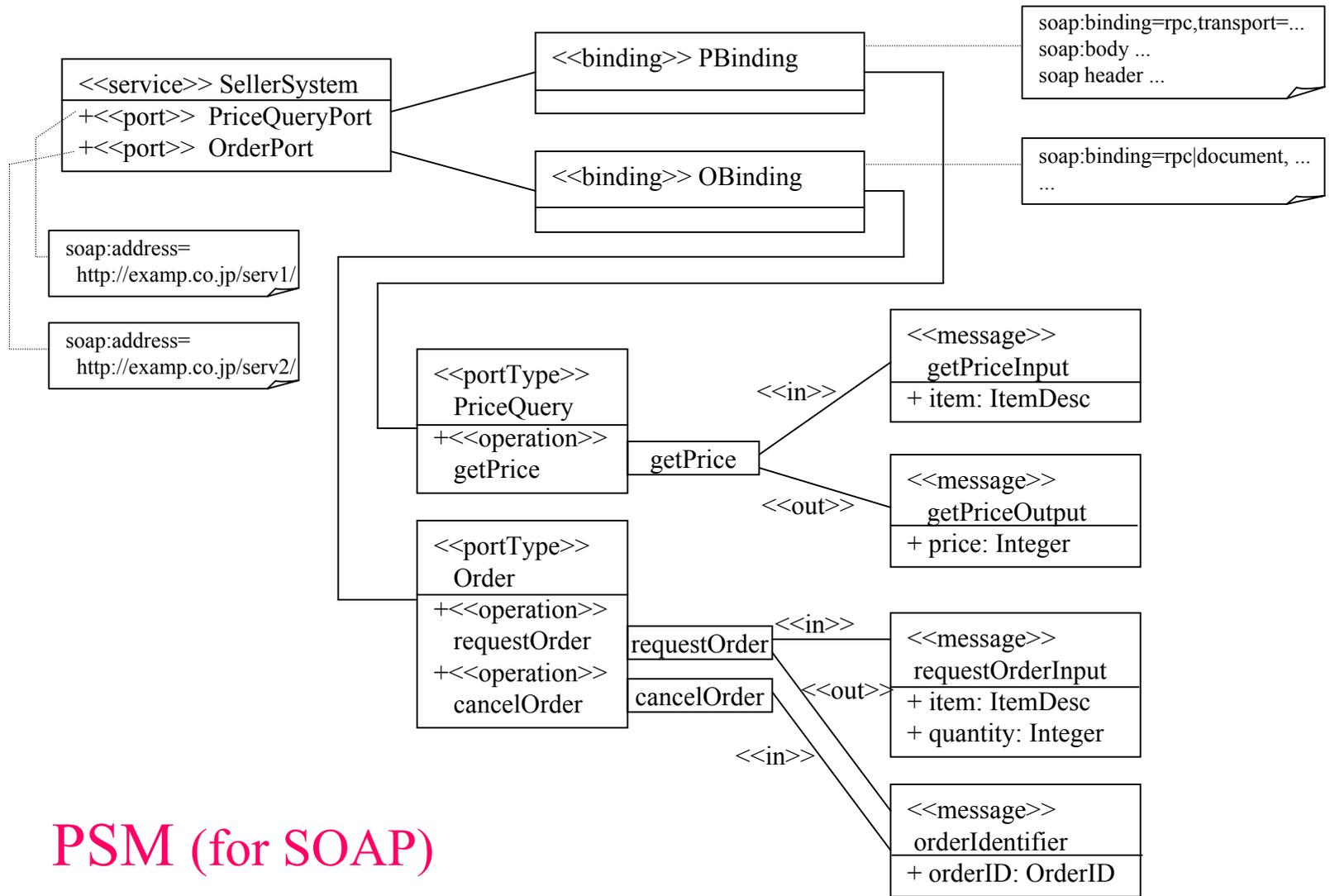
PIM



PSM (SOAP用)

PIM





PSM (for SOAP)

WSDL

```

<definitions name="uri-BuySellSystem" ...
  xmlns:cd="uri-CommonDefinition" ...>
  <import namespace="uri-CommonDefinition"/>

  <message name="getPriceInput">
    <part name="item" element="cd:ItemDesc"/>
  </message>
  <message name="getPriceOutput">
    <part name="price" element="int"/>
  </message>
  <message name="requestOrderInput">
    <part name="item" element="cd:ItemDesc"/>
    <part name="quantity" element="int"/>
  </message>
  <message name="orderIdentifier">
    <part name="orderID" element="cd:OrderID"/>
  </message>

  <portType name="PriceQuery">
    <operation name="getPrice">
      <input message="getPriceInput"/>
      <output message="getPriceOutput"/>
    </operation>
  </portType>
  <portType name="Order">
    <operation name="requestOrder">
      <input message="requestOrderInput"/>
      <output message="orderIdentifier"/>
    </operation>
    <operation name="cancelOrder">
      <input message="orderIdentifier"/>
    </operation>
  </portType>

```

```

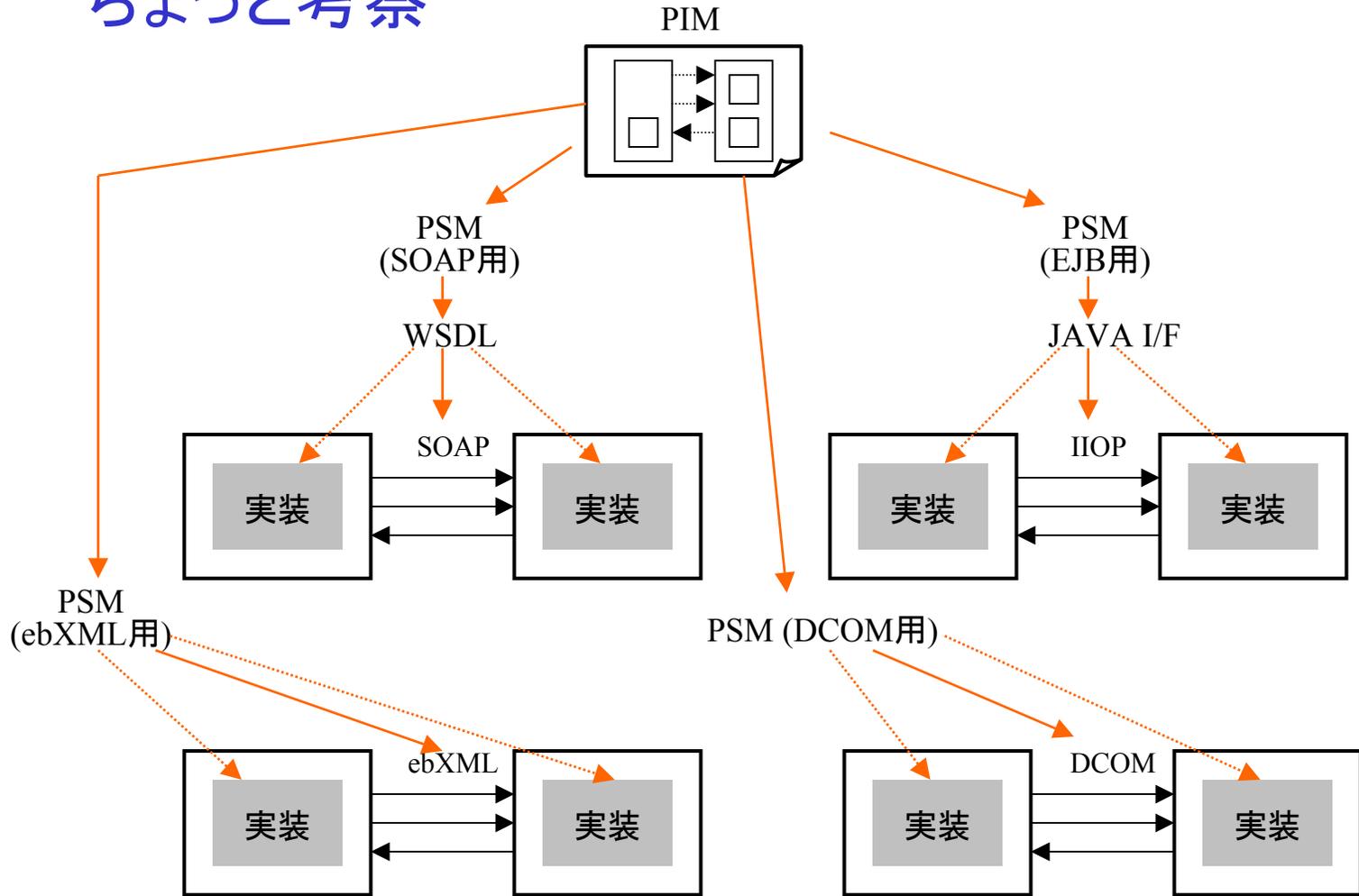
<binding name="PBinding" type="PriceQuery">
  <soap:binding style="rpc"
    transport="schemas.xmlsoap.org/soap/http"/>
  <operation name="getPrice">
    <input>
      <soap:body use="encoded" namespace= ... />
      <soap:header ... />
    </input>
    <output>
      ...
    </output>
  </operation>
</binding>
<binding name="OBinding" type="Order">
  <soap:binding style="rpc|document" transport=... />
  <operation name="requestOrder">
    ...
  </operation>
  <operation name="cancelOrder">
    ...
  </operation>
</binding>

<service name="SellerSystem">
  <port name="PriceQueryPort" binding="PBinding">
    <soap:address location="http://examp.co.jp/serv1"/>
  </port>
  <port name="OrderPort" binding="OBinding">
    <soap:address location="http://examp.co.jp/serv2"/>
  </port>
</service>

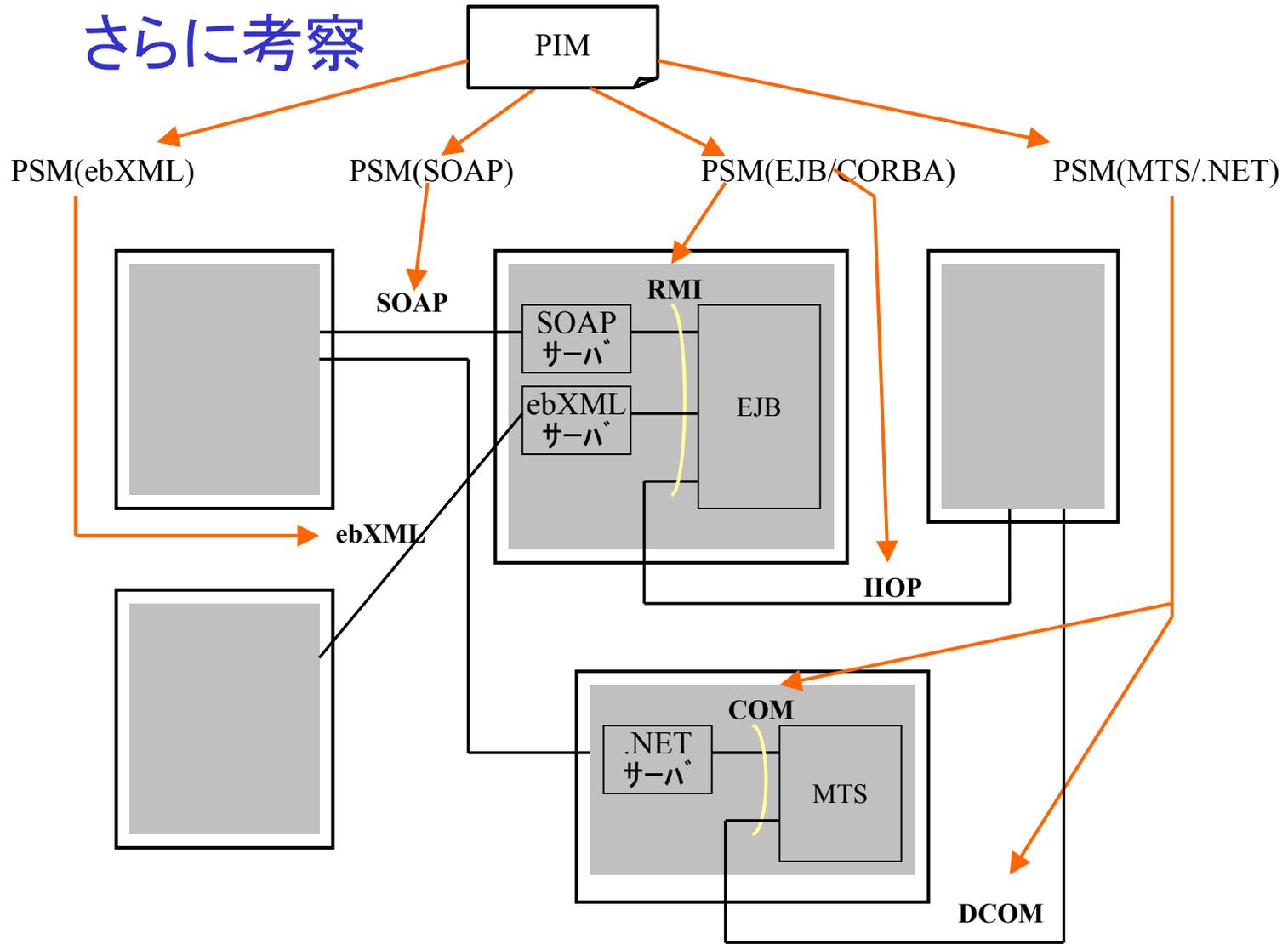
</definitions>

```

ちょっと考察



さらに考察



MDAの実現に向けて

MDAを実現するには



● PIMからPSMへのマッピングをどうするか

- いままでのように、『アーキテクトの経験と実力』や『実装システム設計者・開発者の努力と涙』に頼るのか？
- MDAの“キモ”:
 - 定型的／典型的なマッピングのルールを決める／標準化する
 - ツールによる半自動化をめざす

● PIMとPSMの“距離”を縮める

- フレームワーク機能の充実

PIMからPSMへのマッピング

- ・定型的な設計
- ・特定のアプリケーション分野の典型的な設計

- ・プラットフォームの仕様と特性

標準化

標準化

- 例:
- ・データ保有
 - ・イベント管理
 - ・EAIトランスフォーマ
 - ・患者データ

プロファイル

- ・モデルパターン
- ・マッピング規則

- 例:
- ・EJB変換
 - ・CORBA変換
 - ・XML変換

プロファイル

- ・実装コード
- ・マッピング規則



分析

モデル (PIM)

人手
ツール

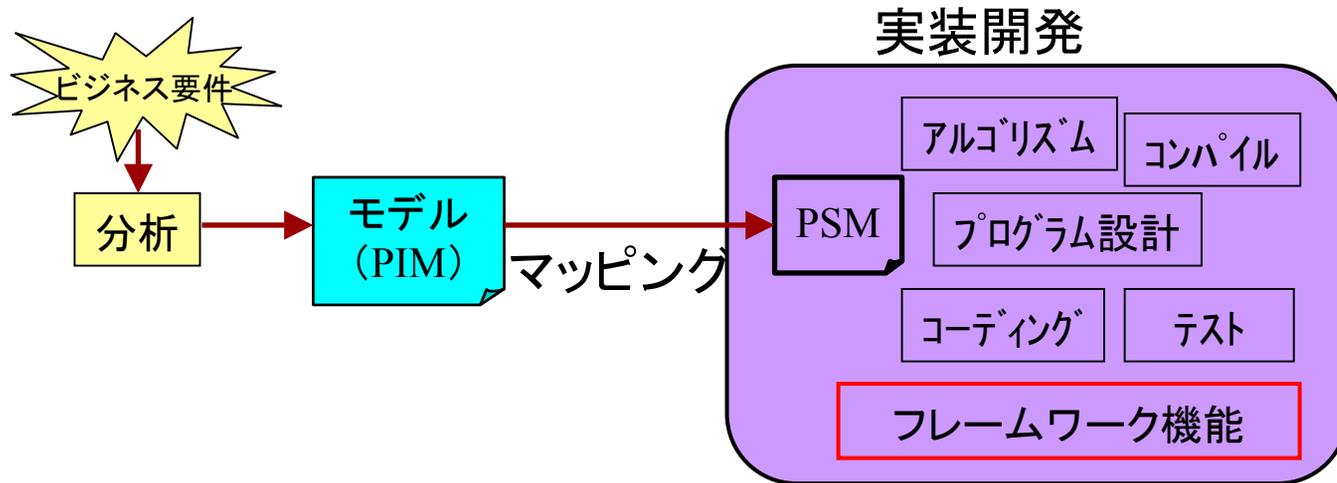
- ・定型ルール化
- ・半自動化

実装開発

PSM

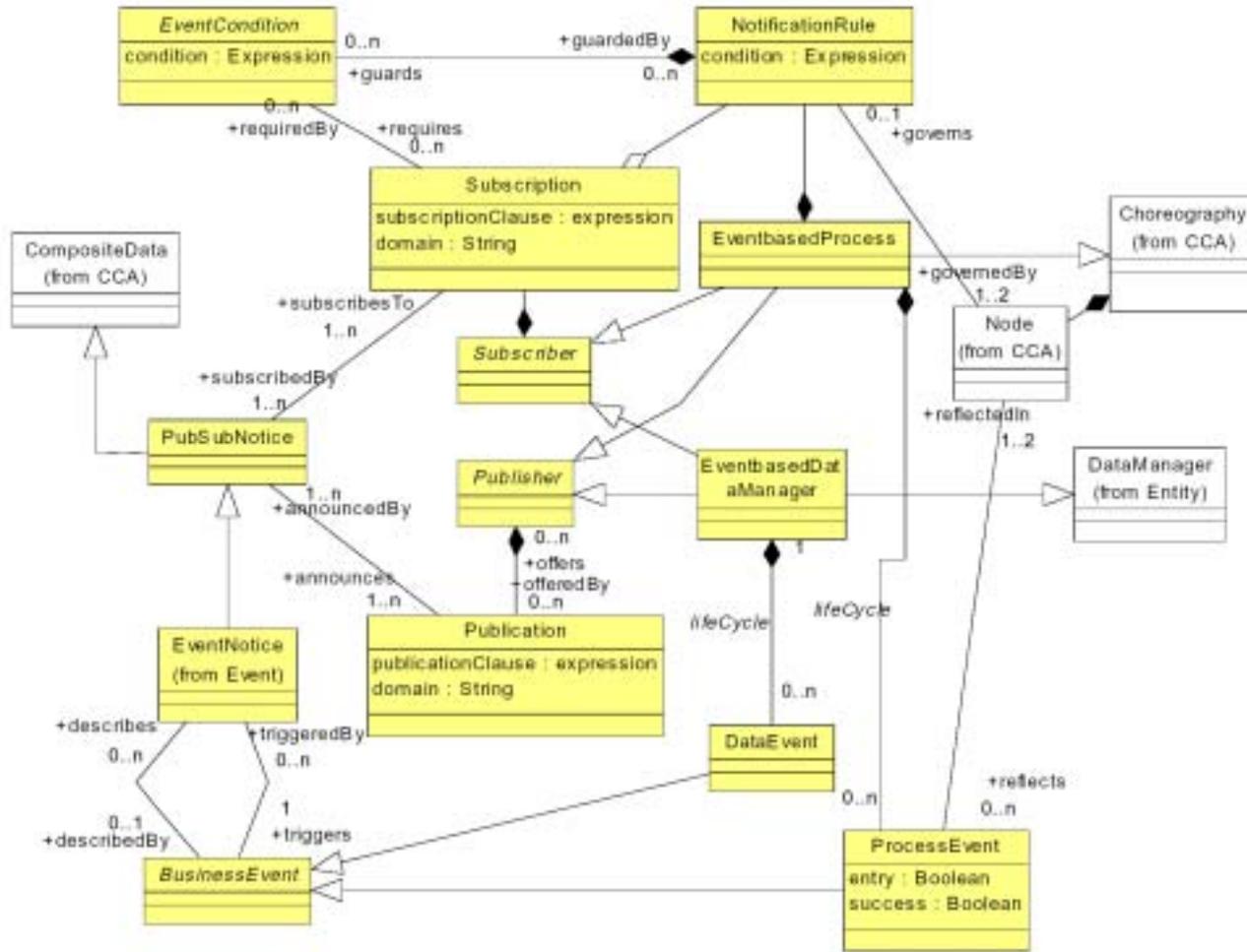
- アルゴリズム
- コンパイル
- プログラム設計
- コーディング
- テスト

PIMとPSMの"距離"を縮める



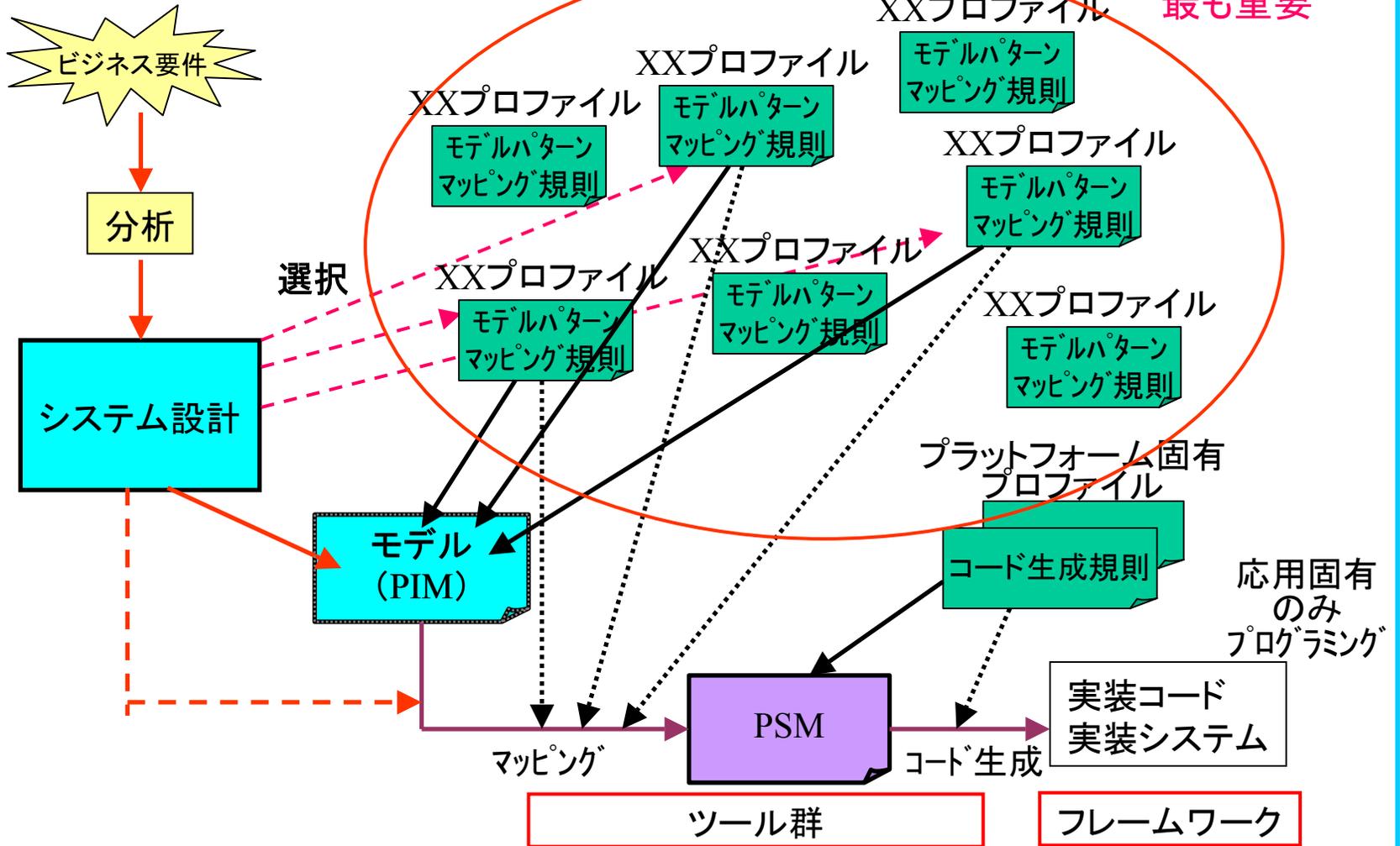
プロファイルの例

(UML Profile for EDOCのEvents Profileの規定)



究極の形

標準(国際/国内、業種内、企業内など)の
プロファイルの蓄積が
最も重要



補足：標準化完、標準化作業中、議論されている

OMG(標準化完)

- UML Profile for EAI (Enterprise Application Integration)
- UML Profile for EDOC (Enterprise Distributed Object Computing)
- UML Profile for Schedulability, Performance and Time
- UML Profile for CORBA

各種のプロファイル

- CCA (Component Collaboration Architecture)
- Entities Profile
- Events Profile
- Business Process Profile
- Relationship Profile

OMG(標準化作業中)

- UML Profile for Modeling Quality of Service and Fault Tolerance Characteristics and Mechanisms
- UML for Systems Engineering

JCP(標準化完)

- UML Profile for EJB (JCP)

その他(議論、話題、うわさ)

- UML Profile for WSDL
- UML Profile for XML Schema
- UML Profile for Persistence Model
- UML Profile for Reverse Engineering
- UML Profile for Framework Architectures
- UML Profile for DCL
- UML Profile for Business Modeling
- UML profile for Business Analysis
- UML Profile for .NET
- UML profile for Interaction design
- UML Profile for Database Design
- UML profile for hypermedia
- UML for Ontology Development
- UML profile for DAML
- UML Profile for Web applications

まとめ

MDAサマリ

- PIMとPSM
- 2種類のマッピング：PIM→PSM、PSM→実装
- PIM作成者のために、アプリケーションに対応した各種標準プロファイルを準備。PSMへの標準マッピングも同時に規定
- PIM→PSMは半自動化、PSM→実装は自動化
- 現実の実装開発に直結し、かつ、プラットフォーム非依存なシステム設計を可能にする
- 多種多様な標準プロファイル開発がMDAの最重要事項だ
国際標準、国内標準、業界標準、団体標準、企業/組織内標準、部門標準、インテグレーター標準、ベンダー標準、個人標準
 - CBOPのMDAプロジェクト構想

まとめ

- ミドルウェアプラットフォームは今後も複数存在し、かつ、最新技術を吸収しつつ進化し続けるだろう。
 - CORBA/Javaや.NETは進化し続けるだろう。
 - Webサービスも進化し続けるだろう。
 - 新たなミドルウェアも登場するだろう。
 - ユーザは、先端の技術を駆使し、最新のITシステムを維持したい。
- ビジネス要求も次々変化する。最新のビジネス要求を迅速に企業ITシステムに実装していくことが必要だ。
- ビジネス進化と技術進化のそれぞれに応じてPIMとPSMは別々に設計・開発したい。ただし、両者が乖離しては困る。また、生産性を上げてくれるやり方でないと困る。
- MDAがこの理想を実現するカギだ。

END

注:このプレゼンテーション内で使用されている企業名や製品名などの各種名称は、当該企業や製品を特定するためだけに用いられています。それぞれの名称は該当する会社等の商標ないしは登録商標である場合があります。

Note: All names in this presentation, including company names and product names, are used identification purpose only, may be trademark or registered trademark of their respective holders.